

弘大・鄒准教授の研究グループが制作 十二湖の魅力 漫画で



研究成果で明らかになった十二湖の成り立ちなどを紹介する漫画。日本語、英語、中国語繁体字版をインターネットで公開

成り立ち分かりやすく

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科の鄒（そう）准教授（44）の研究グループは、世界自然遺産・白神山地の麓に広がる深浦町の景勝地「十二湖」の地形や地質、生態系などの魅力を分かりやすく伝える漫画を制作し、インターネット上で公開している。十二湖は16日に山開きしたばかり。本格的な観光シーズンを迎える中、地域資源を活用した新たなコンテンツとして観光振興を後押しする。

（稲葉智絵）



鄒准教授

漫画のタイトルは「十二湖の魅力に迫る!!」（全23巻）。研究グループの調査によって明らかになった十二湖の成り立ち、生態系や動植物、日本キヤニオンの形成過程などを写真や図解を使って分かりやすく解説。科学的知見も交えながら紹介している。

インバウンド（訪日客）需要に対応するため、日本語版に加え、英語版、中国語繁体字版を制作。QRコードから漫画をダウンロードできるようにし、さまざまな場面での活用を可能とした。漫画とQRコードは2月下旬から、国立研究開発法人科学技術振興機構

（JST）が運営する研究者情報データベース「researchmap」で公開している。鄒准教授は自然災害の中でも地滑りについて地生学的な視点から成り立ちを研究している。十二湖の研究調査は同大着任後の2016年からで「地形の成り立ちに関する情報の少なさがきっかけだったとい

い、「調査研究の成果を広く知ってもらいたい」とともに、観光に役立てられたら」との思いからスタートした。研究は産学官連携を進められ、地盤調査、水没した木の年代測定、古地図や古文書の比較などを実施した。その結果、1440〜1660年の間（室町時代前期〜江戸時代前期）に大規模な地滑りが発生し、川がせき止められるなどして水

がたまり、十二湖が形成されたことが分かった。さらに1704年（江戸時代中期）に起きた宝永岩館地震で小規模な地滑りが複数の箇所が発生、土砂が青池付近まで流れ、現在の形になったことが明らかになった。漫画は研究成果の一部として、鄒准教授の研究室に所属していた当時同科4年の根城雅子さん（2023年度卒、現農林水産省東北農政局職員）が卒業研究で

取り組み、深浦町の協力で制作した。「漫画はどの年齢層にも楽しみながら理解してもらえ方法」と鄒准教授。今回の漫画を通じて「観光客や地域の人々に十二湖の魅力をより深く知ってもらうことはもちろんのこと、観光ガイドや環境教育の教材としても活用してもらいたい」と期待。重ねて「自然の価値を伝えるだけでなく、地域の観光振興や環境保全への理解促進を目指している」と力を込めた。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。